

やはり俺のアメフト生命はまちがっている。(超渋滞中)

amedama

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

もし、比企谷八幡がアメフト選手だったらという作者の勝手な想像から出来上がりました。

元アメフト選手と、元チアリーダーを親に持つ比企谷八幡は、親の影響を受けてアメフトの世界に入ることになる。

XリーグとNFLのチーム、選手は実名で出します。

目次

プロローグ	1
この作品の各大会のレギュレーション及びルール（必読）	4
中学編（凍結）	
中学編 キャラ紹介	7
#1 比企谷八幡の朝は早い。	10
#2 放課後デート？①	12
#3 放課後デート？②	15
Aリーグ編	
プロローグ 激震	18
Aリーグ所属チーム紹介	20
帰国、そして故郷へ	26
オーナー会議①	29
オーナー会議②	31

プロローグ

4月25日 ニューヨーク ラジオシティ・ミュージックホール
俺の名前は比企谷八幡。

唐突だが、俺はアメリカンフットボールが好きだ。

俺の親父は、俺が生まれた頃、会社員として大手IT企業に勤めながら、アメフトチーム「IBMビッグブルー」でクォーターバックとして活躍していた。

まあ、俺が高校に入る時には引退して一介の社畜に戻っていたのだが。

それで、親父からアメフトの蘊蓄を何度も聞かされ、アメフトに興味を持った。

親父に連れられて、試合を見に行ったことが沢山ある。

いつしか俺も、アメフトをやりたいと思った。

小学校に入ると同時に、習志野のアメフトチーム「オービックシールズ」のジュニアチームに入団し、中学まで所属した。

高校も、アメフトが強い総武高校に入った。

高校では色々なことがあった。

あったことが多すぎて、語り尽くすと数日かかりそうだな。

そして、大学もアメフト強豪の法政大学を選ぼうとした。

所が、高校時代にU-18の日本代表でアメフトの本場アメリカの代表チームをケチョンケチョンに負かした事もあってアメリカの大学からスカウトの嵐と来た。

アメリカなんて行きたくないから断ろうとしましたよ？

でもさ、小町が満面の笑みで

「小町、お兄ちゃんがカレッジフットボールとかNFLで活躍してるの観たいなあ！当然行くんでしょ？てか、行かないと小町泣いちゃうよ？」

ってさ。あれ完全に脅しだよな？

小町の鶴の一声に、アメフト大好きな両親も

「小町がそう言うんだ。行ってこい、てか、行け。命令だ。カレッジ

フットボール参戦して蹴散らしてこい」

と、周囲は行け行けの大合唱。

親父は、日本代表でアメリカ代表の大学生たちに負けて馬鹿にされたことが何より悔しかったらしい。

四面楚歌状態となった俺は留学せざるをえなくなり、アメリカのオーバーン大学へと赴いた。あのキャム・ニュートンを輩出した大学だ。

俺がアメリカに行く時、日本は空前のアメフトブーム真っ只中だった。

高校生代表だとはいえ、日本代表がアメリカ代表を負かした訳だからな。

総武高校にも取材が何度も来た。

Xリーグの入場者数もうなぎ登り。

羽田ではアメフトファンから祝福の声。

戸塚に花束と寄せ書きを渡されたときは涙したね。

それで、アメリカに行ったものの、なめられたもんだよ。

まあ、そのあとそいつらアメフト部入ることもなく消えてったけどね。

両親の言葉通りカレッジフットボールでは大暴れしてオーバーンは首位独走。

オーバーンにも、総武にも、取材の嵐。

果てには、ハイズマン賞。

どうしたアメリカ。

俺のカレッジフットボール生活は良かった。

そこに追い打ちをかけるように小町から手紙が来た。

「お兄ちゃんはNFLドラフトに出なければならぬのです」

はい、アメリカで骨埋めろコール。

そうして、NFLドラフトにエントリーしたわけだ。

日本のメディアは連日俺を取り上げた。

そして・・・

『今年のNFLドラフト、全体1位として、デンバー・ブロンコスが指

名したのは……ハチマン・ヒキガヤ!』
観客の歓声。全体1位指名。
どうしてこうなった。

これは、俺、比企谷八幡の中学からのアメフト人生の物語である。

この作品の各大会のレギュレーション及びルール（必
読）

日本中学生アメリカンフットボール選手権

○参加チームは第5回大会時点。

○関東は6チームがオール中立地1回戦総当たり。

○関西中学校連盟は第5回の6チームをそのまま出す。

○チエスナット枠も第5回大会のチームをそのまま出す。

○安全面を考慮し激しいタックルは禁止、接触した時点で攻撃終了。

高校生編

○2017年度SIC地区13チーム＋総武高校の計14チーム。

○本戦は北海道1チーム、東京2チーム、神奈川1チーム、SIC1チーム、SIC2位vs神奈川2位の勝者、静岡1位vs東海1位の勝者、滋賀1チーム、京都1位vs広島1位の勝者、大阪2チーム、兵庫1チームの計12チーム。

○東日本（北海道、東京、神奈川、SIC）と西日本（静岡東海、滋賀、京都広島、大阪、兵庫）に別れてオール中立1回戦総当たりのリーグ戦を行う。

○東西1位がクリスマスボウルで対戦。

カレッジ編

○NCAAの大会方式をそのまま使用。

NFL編

○NFLの大会方式をそのまま使用。

Aリーグ編（完全オリジナルリーグ）

○NCAARルールをベースにしながらもNFLルールや独自ルールを採用。

○東6中6西6の計18チーム。さらにフロンティア・カンファレンス、チャレンジャー・カンファレンスに分ける。各カンファレンスも東3中3西3の9チームで、フロンティアはXリーグで言うSUP

ER9、チャレンジャーはXリーグで言うBATTLE9。

○1st、2nd、チャンピオンシップの3ステージ制。

○1st(3〜6月)は同一地区のチームとホーム&アウェイの2回戦総当たり。

○2nd(9〜11月)は同一カンファレンスかつ別地区のチームとホーム3アウェイ3の1回戦総当たり。

○勝ち3点引き分け1点負け0点。

○シーズン終了時年間上位9チームは翌シーズンのフロンティア、下位5チーム、A2からの自動昇格チーム、残留チーム、入れ替え戦勝者が翌シーズンのチャレンジャーに振り分けられ、そこから翌シーズンの地区割りが決定する。

○1st、2ndの通算成績上位4チームがチャンピオンシップ(12月)に進出。1位vs4位、2位vs3位で中立ワンマッチ、そしてその対決の勝者が中立ワンマッチで対戦し、総合優勝が決まる。

○チャンピオンシップと並行する形で残留プレーオフも行う。年間下位4チームが出場し、1回戦で負ければ即降格、2回戦で負ければ入れ替え戦、勝てば残留となる。

○毎年8月にオールスター戦を行う。

○A2リーグは、ホーム&アウェイ2回戦総当たり。優勝、準優勝のチームは自動昇格、3位がA1残留プレーオフ2回戦敗者との入れ替え戦。昇格チームは翌シーズンのチャレンジャーカンファレンスに入る。

Aリーグは日本のプロアメフトリーグとして作ります。

Xリーグは八幡がNFL入りする頃にはプロアマ混成のリーグにしていますが、完全プロ化が何時まで経っても実現しないことに激怒したXリーグ18球団のうち9球団とオーパーツ福岡サンズを含めた10球団がXリーグから脱退。新設8球団を混ぜた18球団で発足する、という構想です。

さらに、Xリーグ系2球団と新設4球団で2部も発足させます。

最初はAリーグとXリーグで協力関係を築くつもりでしたが、JBL(スーパーリーグ)、JBAから独立したbjリーグみたいに敵対路

線をとることにします。

中学編（凍結）

中学編 キャラ紹介

比企谷八幡

お馴染み主人公。J r. シーガルズのクォーターバックで背番号1番。

存在感が薄かったりするため、スクランブルやランプレーでゲインを獲得する事が多い。ランだけでなくパスも強く、オフエンストームの要で正QBとして活躍する。

オフエンストームのキャプテンでもあり、番田と戦術についてよく話し込んでいる。

他人の好意に鈍感で、かつ女子に優しくしすぎるため、チームメイトやクラスメイトから朴念仁呼ばわりされる。

原作お馴染みの腐り目は、この作品では少しだけ濁りがあるが、それは冷徹な性格や怒りモードや、憂鬱になったとき。

普段は温厚で目は腐ってない。

比企谷勝司

八幡と小町の父親。大手ITベンダーのIBMに勤め、IBMビッグブルーでQBとして活躍し、日本代表にも選出された。

伝説のクォーターバックと言われており、スピード感のある攻撃で何度かチームをリーグ優勝に導いた。

チアリーダーであった華と1997年に結婚し、翌年八幡を出産した。

2010年に現役を引退し、ヘッドコーチとかには就かず、アドバイザーとしてチームに携わっている。

歴代のヘッドコーチとは仲が良く、華を混ぜた3人で度々呑みに行く。

家族を溺愛しており、八幡にはアメフトの蘊蓄を語り、試合に連れていったり、小町には豪華な誕生日プレゼントを買い与えるなどしている。

夫婦仲はとても良く、何年経っても新婚に近いほど。

比企谷華

八幡と小町の母親。勝司の2歳年下で勝司と同じIBMに勤めながら、チアリーダーとしてチームの応援に携わっていた。

現役時代から勝司と仲が良く、1995年から交際を始めて1997年に結婚。翌年八幡を出産した。

美人でスタイルも良く、高校時代からラブレターを何枚ももらうほど人に好かれやすい。

一見完璧美人に見えるが、かなりのオタクであり、さらに家族を溺愛(特に勝司と八幡)している。そのため夜中八幡が寝ている時に、下着姿(ひどいときは全裸)で八幡のベッドに忍び込み、自身のFカップの胸を八幡の顔に押し付け、八幡の手を胸や下腹部に持つていくなど、かなりヤバイ領域に入っている。

そのため毎朝八幡に正座させられ説教される。

小町からも説教されるが、勝司は「俺にしてくれよ」とがっくりしている。

そのため毎晩勝司のご機嫌をとっている。

引退後は専業主婦となった。

比企谷小町

八幡の妹。八幡を溺愛する華に毎回説教する。もはや親子関係は逆転しているのかもしれない。

家事スキルカンストのハイスペック妹。

八幡の事を慕っていて、さらに両親の影響もあつてかアメフト好きに。将来はチアリーダーになりたいんだとか。

折本かおり

八幡のクラスメイト。八幡と同じグループに属し、八幡の試合に毎回応援に行っている。

実は八幡に……(お察し下さい。)

仲町千佳

八幡のクラスメイト。八幡と同じグループに属している。北添と仲が良い。

北添尋（『ワールドトリガー』より）

八幡のクラスメイト。J r. シーガルズのオフエンスライン（セクター）で番号50番。自らを「ゾエさん」と称す。

八幡と同じグループに属している。

八幡、仲町と仲が良く、八幡とは名コンビ。

番田一翔（オリキャラ）

八幡のクラスメイト。J r. シーガルズのラインバッカーで、番号21番。

八幡と同じグループに属している。

デイフェンスチームのキャプテンで、八幡と戦術についてよく話し込んでいる。

折本に……（お察し下さい。）

清川優（オリキャラ）

八幡のクラスメイト。八幡と同じグループに属している。

番田に……（この流れ自分で書いてて自分で飽きた。察して。）

#1 比企谷八幡の朝は早い。

八幡 side

俺、比企谷八幡の朝は早い。

毎日5時にはもう起きている。

え？早すぎだし、睡眠時間は大丈夫かって？

毎日夜11時には寝てるし大丈夫だろ。

起きてすぐ、昨日のうちに作っておいたおにぎりを食べて、トレーニングウェアに着替える。

5時半に家を出て、自宅から中学校までランニング2往復する。それが終われば自宅に戻り、地下室でトレーニングをする。

父親がアメフトをやっていたこともあり、地下室はランニングマシン、エアロバイク、ダンベルなど、トレーニング器具が揃っている。

そこで毎日の筋トレのノルマをクリアして、また飯を食って制服に着替えて学校へ行くわけである。

学校に着いてもまだ7時半。

教室で本を読んだり、予習したりして、朝のホームルームを待つ。

8時を過ぎると、クラスメイトが続々と教室に入ってくる。

「おはよう、比企谷。お前いつも来るの早いな」

「これでも長い時間トレーニングしてから来てるんだがな、番田」

番田一翔。同じアメフトチームのラインバッカーだ。

俺はオフエンスチームのキャプテンで、こいつはディフェンスチームのキャプテンだ。

そういったこともあり、学校ではこいつとつるむ事が多い。

「そう言えば、比企谷。そろそろ今シーズンの練習始まるだろ。それに向けてトレーニングしようぜ」

「あー、じゃあうちの地下室使うか」

「マジか！サンキュー」

トレーニングの話をしていると、また誰かが入ってくる。

「ハッチにカズ、おはよー」

「ゾエ、お前も早起きか」

北添尋。オフエンスライン（センター）で、俺とコンビを組む。こいつと組むとき攻撃の成功率上がるんだよな。

「いやゾエさんは毎日24時間営業だからね？日曜11時から月曜7時まででは休みだけど」

「その生活習慣直せ。ロースター外れるぞ」

「嫌だ！それだけは絶対嫌だ！」

「嫌なら直せドアホ！」

ゾエの発言に番田が間髪入れずに突っ込んでいく。

いつも通りの展開だ。

ゾエの発言と番田のツツコミが炸裂しまくるなか、女子グループが教室に入ってくる。

「おはよ、比企谷」

「よ、折本」

折本かおり。クラスの女子の中ではこいつと一番つるんでいる。

「何かゾエが涙目なんだけど」

「いつものやつだ」

「まだゾエ24時間営業宣言してるの!?!ウケるんだけどおwww」

腹を抱えて大爆笑する折本。笑えるところあるか？

折本のウケるウケないの境界線が気になる。

「ところでさ、比企谷。今日の放課後暇？一緒にどっか行こーよ！」

そうやって抱きついてくる折本。

ヤバイヤバいいい匂いいい匂い柔らかいいい。

当たってる当たってる当たってる

「当ててるんだよ、それでどう？一緒にお茶しよっ」

心読めんのかこいつ・・・

「わかったから離れてくれ。苦しい」

「やた♪じゃあ放課後ね〜」

そうやって折本は離れて自分の席へ戻っていった。

#2 放課後デート?①

八幡side

放課後

やく、授業終わったよ。

数学と理科マジで苦手だな。

番田にトレーニングルーム貸すし、あいつに教えてもらうか。あいつ文系教科ダメダメだけど理系教科むっちゃ良いし。どこぞの機械仕掛けの親指姫を男にしてイケメン化させて背を高くした感じだな、あいつ。

そんなことを考えながら昇降口に向かうと、ある女子が俺を見つけては駆け寄ってきた。

「ひっきがやく〜!」ニコニコ

折本である。てか抱き付くな、ダメダメやめてくれ柔らかい柔らかい良い匂い良い匂い良い匂い!

当たってるからやめてくれよ周りの視線が嫌なんだよ・・・
「当たってるんだよ。てか、こんなことするの、比企谷にだけだよ♥」カオマツカ

そう言われてドキツとした。後ろにハートがついているのは気のせいであってほしい。

「ねーねー、どこ行く?」

そう、折本と放課後何処かいく約束だった。

「お前が決めると思ってたぞ、てつきり」

「まー、私が勝手に決めて、比企谷が不満なのは嫌だから」

「別に何処でも良いんだけどな」

「よし、ならゲーセン行こうゲーセン」

「お前がゲーセン選ぶなんて珍しいな」

「なら、私が何処選ぶと思ってた?」

「ピンク多目で頭の悪そうな店」

「アハハ何それ!比企谷私の事そういう人間だと思ってたんだ!ウケるんだけどwww」

腹を抱えて大笑いする折本。

「ウケるとこ無いだろ今のは」

「いやいや、私からすれば超ウケるの」

「どういうセンスだそりゃ」

「はあく、笑った笑った。じゃ、ゲーセン行こ！何処のゲーセンが良いかな」

「無難にムー大にするか」

「おっ、良いじゃん、行こう行こう」

二人並んでムー大に行く。

ムー大

「ねーねー、比企谷、どれやる?」

うー、悩む。音ゲーがやりたい、しかし麻雀系も捨てがたいし、銃ゲーも面白そうなものがある」

「そうだねー。よし、音ゲーにしよう!」

どうやら声に出していたようだ。そして、折本はある音ゲーの前に行く。太鼓のゲームだ。

「比企谷、早く!」

太鼓のバチをもって早く来いと言う折本。無邪気な少女の様に見えてとても可愛い」

「かつ、可愛い!?!私が!?!」カオマツカ

.....え?

「声に出してたか?」

「うん／＼／＼」

おもいつきり赤面して顔をバチで隠そうとする折本。
隠れてねーぞ。

「...なんか、すまん」

「良いよ気にしなくて。ウレシカッタシ」

「何か言ったか?」

「何でもない!早く、コイン入れて、バチ持つ!」

そう言われたため、すぐにコインを入れて、バチをとって、スタンバった。

#3 放課後デート？②

折本とムー大陸に来て1時間。

色んなゲームをしたが、太鼓のゲームを除いて負けまくっている。

「よし、約束通り、比企谷、夕飯奢ってね」

さつきもダンスゲームして負けた。

折本と賭けをしていたため、夕飯を奢ることになった。

なので、小町が居る家に電話する。

『もしもし。どったの、お兄ちゃん』

「小町、俺折本と外食して帰るから夕飯要らないわ」

『え、かおりさん?!小町も行く!まだ夕飯の支度してないし』

「ちよつと聞いてみるわ」

そう言っつて、俺は折本の方を向く。

「小町が私も行きたいって言ってるんだが」

「いいよー。小町ちゃんにも会いたかったし」

「小町、千葉駅で待ってる」

『あいよー!すぐ準備して行くから!』

そうして電話を切る。

「行くか」

「そだねー」

俺と折本は千葉駅へ向かった。

千葉駅

「あー、いたいた。お兄ちゃん」

駅で小町と合流した。

「さて、どこ行こっか」

「この近くなら、ラーメン、肉料理、そば、寿司の店があるぞ」

「小町はそばが食べたいです!かおりさんは?」

「うーん、私は肉料理かな」

「俺はラーメンだが・・・」

『『なりたけ』なら私はいいいけど』

「よし、ラーメンにするか」

「小町はあのこつてりしたの苦手です・・・」

「あつさりにもできるぞ」

「じゃあそうする」

俺と折本はこつてりを、小町はあつさりを選択した。

「凶暴な旨味だったね・・・」

どうやら小町はなりたけのあつさりも駄目のようだ。

「どこなら大丈夫なんだよ・・・」

「普通の鶏ガラ醤油が小町にはちようど良いかな」

「なりたけのギタギタつてあんな感じなんだね」

「あそこは結構良いだろ」

「今度また二人で行こうよ」

「かおりさん、どんどんお兄ちゃんとデートしてあげてくださいね!」

「こ、小町ちゃん!?!」

「流石に何度も行くのはな・・・」

「え、比企谷は嫌なの?」

「いや、折本に変な噂とか立つちまうだろ」

「噂なんて立つわけないじゃん。ねえ、ダメ?」

折本はじりじりと俺に寄ってくる。やめてやめて近い近い。可愛

すぎてドキドキしちまうだろ。

「・・・ちっ、わかったよ」

「やったぜ」

「よかったですね、かおりさん」

「うん・・・」

「どうしましたか?」

「ねえ、小町ちゃん、ちよつといい?」

折本が小町とひそひそ話し始めた。

小町が何やら驚いてから、折本に一声かけた。

そして小町がこちらを向く。

「ごめんお兄ちゃん、小町宿題あったから、急いで帰ります!だからか

おりさん送ってあげて」

「宿題せずに来たのかよ・・・。まあ、わかった、送ってく」

「じゃあ、先に帰るね、かおりさんまた今度！」

手を振りながら小町が走り去る。忙しいやつだな。

「行くか」

「うん」

俺と折本は再び歩き始めた。

Aリーグ編 プロリーグ 激震

2026年2月20日

NFL初の日本人プレーヤーにして、現役最強QBとも称される比企谷八幡は、この日デンバーのあるホールに来ていた。このホールで会見を行うのだ。

ホールには既に4大ネットワークの記者だったり、祖国日本のメディアも集まっている。

比企谷八幡が会見場に姿を現すと、フラッシュが一斉に炊かれはじめ、会見場は眩しくなっていた。

『皆さんこんにちは、デンバー・ブロンコス QB1番、比企谷八幡です。今日のご多忙の中、足を運んで頂き、誠にありがとうございます』
比企谷八幡はマイクで流暢に英語で会見を始める。そうすると、フラッシュも止みはじめた。

『今回集まってもらったのは、移籍についてです。皆様も知つての通り、日本でもプロのアメフトリーグが作られ、ほとんどのチームからオファーが来ていました。．．．単刀直入に言わせていただきます。私、比企谷八幡は、日本プロアメリカンフットボールリーグ、通称Aリーグに所属するチーム、ビッグブルー東京へ移籍することで、ブロンコス、ビッグブルー両チームと合意したことをお知らせさせていたできます』

移籍。しかも、日本のリーグ。そして、移籍先は父親の古巣。

この発言の後、再びフラッシュが一斉に光る。

『移籍金は、日本円で75億円。移籍後の年棒は、1年辺り6億円。3年契約で、総額18億円になりました。何故移籍を決めたかお話しします。一つ目。父親の古巣であること。私の父、比企谷勝司は、ビッグブルー東京の前身チーム、IBMビッグブルーで、クォーターバックをしていました。私は小さい頃、父親によくアメフトの試合についていってもらったり、アメフトを教わったりしました。父がアメフト

を教えてくれたからこそ、私は今まで、アメリカで何年もフットボールが出来た。今父は、ビッグブルー東京のヘッドコーチになっています。今回の移籍は、父への親孝行みたいなものでもあるのです。2つ目は、日本のリーグに興味があることです。2022年まで、日本のアメフトはアマチュアとプロが同じリーグにいました。それが、今の日本アメリカンフットボールリーグ、通称Xリーグです。その中で、企業スポーツ路線から離れ、地域密着型かつ、本格派プロのリーグが生まれた。それが今のAリーグです。私は、実際に選手としてAリーグでプレーしてみたくなった。この2つの理由で私は、移籍することになりました。ブロンコスファンの皆様には、突然すぎる知らせで申し訳ないと思っています。しかし、日本のリーグに行っても、変わらず私の事を応援していただければ幸いです。』

ここまで言って、暫く間を置く。そして、今度は日本語でこう言った。

「Aリーグの選手、コーチ。日本のアメフトがどこまで進化したか、見せてもらおう」

そしてまた、英語で締める。

『これにて会見は終了です。ありがとうございました』

比企谷八幡は出ていく。メディアの人々は、去っていく彼を、口を開けて見ていることしか出来なかった。

そして翌日、日米だけでなく、世界中に激震が走る。

「日本人初のNFLプレーヤー比企谷八幡、父の古巣に電撃移籍」(A新聞)

「比企谷八幡、親孝行は父のチームへの移籍」(Nスポーツ)

「比企谷八幡電撃移籍 ブロンコスキーマン失う」(COS)

「ビッグブルー東京大型補強 比企谷八幡獲得」(Fテレビ)

Aリーグ所属チーム紹介

A1リーグ

EAST

○札幌ノーザンウォリアーズ（新）（C）（北海道）

札幌に本社を置く有名企業十数社を中心に設立。

ホームスタジアム：札幌ドーム

主要スポンサー：ニトリ、ツルハグループ、セイコーマート

ヘッドコーチ：デヴィン・ガードナー

○仙台シャイニングスターズ（新）（C）（宮城県）

仙台市、宮城県に本社、工場を置く会社などで設立。2024シー

ズンはA2だった。

ホームスタジアム：ユアテックスタジアム仙台、宮城スタジアム

主要スポンサー：ユアテック、楽天

ヘッドコーチ：荒崎 敦

○埼玉パスファインダーズ（新）（C）（埼玉県）

埼玉県に本社を置く企業や、自治体によって設立。

ホームスタジアム：浦和駒場スタジアム、メットライフドーム

主要スポンサー：マルエツ、大塚家具、西武グループ

ヘッドコーチ：ケヴィン・クラフト

○千葉シーガルズ（X）（F）（千葉県）

オービックシーガルズをプロ化。

ホームスタジアム：ZOZOマリンスタジアム

主要スポンサー：イオン、オービック、QVCジャパン、スタート

トゥデイ、ZOZO

ヘッドコーチ：ケヴィン・ジャクソン

○相模原ライズ（X）（F）（神奈川県）

ノジマ相模原ライズをプロ化。

2023シーズンの準優勝。

ホームスタジアム：相模原ギオンスタジアム（現実とは違い300

00人収容かつオール椅子席に改築されている）

B 主要スポンサー：ノジマ、ギオン、住宅情報館、ブックオフ、KY

ヘッドコーチ：菅原 俊

○ディアーズ調布（X）（F）（東京都）

LIXILディアーズをプロ化。

2024シーズンの準優勝。

ホームスタジアム：東京スタジアム、アミノバイタルフィールド（稀に）

主要スポンサー：味の素、LIXIL、鹿島建設、すかいらーくグループ

ヘッドコーチ：サニー・ウィーバー・シニア

CENTRAL

○シルバースター横浜（X）（F）（神奈川県）

アサヒビールシルバースターをプロ化。

2024シーズン、2025シーズンはチャレンジジャー・カンファレンス所属。

ホームスタジアム：横浜スタジアム、ニッパツ三ツ沢球技場

主要スポンサー：アサヒビール、興和、LEOC、JAL

ヘッドコーチ：有馬 隼人

○横浜ビー・ダイヤモンズ（新）（F）（神奈川県）

日産自動車、三菱地所などで設立。

2024シーズンのチャンピオン。

2025年のアジア・オセアニア予選の結果、IFFAクラブワールドカップ2026に出場決定。

ホームスタジアム：日産スタジアム

主要スポンサー：日産自動車、三菱地所、臨海セミナー、スカイマーク

ヘッドコーチ：中村 輝晃 クラーク（選手兼ヘッドコーチ）

○ビッグブルー東京（X）（F）（東京都）

IBMビッグブルーをプロ化。

2023シーズン、2025シーズンのチャンピオン。

I F A F クラブワールドカップ2024準優勝。

ホームスタジアム：国立競技場、東京ドーム

主要スポンサー：I B M、A N A、日立製作所、大林組

ヘッドコーチ：比企谷 勝司

○アルバルク東京A F C（新）（C）（東京都）

トヨタグループが出資して設立。

2024シーズン、2025シーズンはフロンティア・カンファレンス所属。

ホームスタジアム：駒沢五輪競技場、町田市立陸上競技場

主要スポンサー：トヨタ自動車、アイシン、デンソー、ダイハツ工業、豊田自動織機、豊田通商

ヘッドコーチ：ニック・フォールズ

○ジュビロ静岡（新）（C）（静岡県）

ヤマハやI A I、鈴与グループの出資で設立。2024シーズンはA2だった。

ホームスタジアム：ヤマハスタジアム、エコパスタジアム

主要スポンサー：ヤマハ発動機、I A I、鈴与、J D L、フジドリムエアライNZ、ハラダ製茶

ヘッドコーチ：山田 晋三

○名古屋サイクロンズ（X）（C）（愛知県）

名古屋サイクロンズをプロ化。2025シーズンはA2だった。

ホームスタジアム：パロマ瑞穂スタジアム、豊田スタジアム、ナゴヤドーム

主要スポンサー：パロマ、リンナイ、中日新聞、日本ガイシ

ヘッドコーチ：藤田 幸樹

W E S T

○大阪ブラックイーグルス（X）（F）（大阪府）

アズワンブラックイーグルスをプロ化。

ホームスタジアム：ヤンマースタジアム長居、長居球技場

主要スポンサー：大日本除虫菊（キンチョウ）、アズワン、阪急電鉄ヘッドコーチ：ウイリアム・バードソン

○大阪チャレンジヤーズ（X）（F）（大阪府）
アサヒ飲料チャレンジヤーズをプロ化。

ホームスタジアム：大阪ドーム、エキスポフラッシュユフィールド（稀に）

主要スポンサー：東宝、アサヒ飲料、オリックス
ヘッドコーチ：栗田 堅一

○神戸ファイニーズ（X）（C）（兵庫県）
エレコム神戸ファイニーズをプロ化。

ホームスタジアム：ノエビアスタジアム神戸、ユニバー記念競技場
主要スポンサー：ノエビア、エレコム、上新電機、P & amp G、
ノーリツ

ヘッドコーチ：ロン・リベラ

○鳥取ホワイトラビッツ（新）（C）（鳥取県）

鳥取の企業や自治体で設立。2025シーズンはA2だった。

ホームスタジアム：鳥取布勢陸上競技場（現実と違いアメフト対応
25000人収容オール椅子席、屋根付き）、Axisバードスタジアム（現実とは違いアメフト対応、かつ20000人収容オール椅子席に改築された）

主要スポンサー：鳥取ガス、因幡の白うさぎ、サンマート、グッド
ヒル、日本海新聞、山陰合同銀行、鳥取銀行、Axis、Lassie

^c ヘッドコーチ：ベン・ロスリスバーク

○福岡サンズ（X）（C）（福岡県）

オーパーツ福岡サンズをプロ化。

ホームスタジアム：ヤフオクドーム、ベスト電器スタジアム

主要スポンサー：レベルファイブ、ソフトバンク、オーパーツ、ス
ターフライヤー、日本製鉄、かねふく、ベスト電器

ヘッドコーチ：ジョン・コールマン

○メンソール琉球（新）（F）（沖縄県）

沖縄県の企業や自治体で設立。

2025シーズンの準優勝。

ホームスタジアム：沖縄スタジアム（架空、25000人収容）
主要スポンサー：オリオンビール、A & amp; W、全保連、ユーグレナ、沖縄タイムス

ヘッドコーチ：阿波根 蓮

A2リーグ（今の所地域区分無し）

○ブルザイズ東京（X）（東京都）

ブルザイズ東京をプロ化。2025シーズンはA1だった。

ホームスタジアム：国立競技場

主要スポンサー：東芝、港区市民

ヘッドコーチ：ジョン・スタントン

○ソリッドステート東京（X）（東京都）

Sony Solidstateをプロ化。2025シーズンはA1だった。

ホームスタジアム：八王子国際陸上競技場（架空のスタジアム、50000人収容）

主要スポンサー：ソニー、ソニー損保、プルデンシャル生命、アニメックス

ヘッドコーチ：澤口 亮治

○長野ファイターズ（新）（長野県）

長野県の有力企業らが設立。A1ライセンスを持っていたが、2026シーズンのA1ライセンス審査に落ちた。

2024シーズンはA1だった。

ホームスタジアム：松本平広域公園総合球技場、長野Uスタジアム
主要スポンサー：長野銀行、セイコーエプソン

ヘッドコーチ：山口 寛太

○新潟アルビレックスAFC（新）（新潟県）

新潟の企業や市民が設立。2024シーズンはA1だった。2026シーズンのA1ライセンス審査に落ちた。

ホームスタジアム：デンカビッグスワンスタジアム

主要スポンサー：NSGグループ、北越急行、栗山米菓
ヘッドコーチ：ブライアン・カラー

○京都オイデヤース（新）（京都府）

京都の有力企業や市民が設立。2026シーズンの審査で初めてA1ライセンスが交付された。

ホームスタジアム：西京極陸上競技場

主要スポンサー：任天堂、京セラ、佐川急便

ヘッドコーチ：ジヨナサン・スチュアート

○広島カープAFC（新）（広島県）

マツダや自治体を中心となり設立。

ホームスタジアム：MAZDA Zoom-Zoomスタジアム広

島、エディオンスタジアム広島

主要スポンサー：マツダ、広島市、モルテン、ポプラ、エディオン

ヘッドコーチ：エディ・ウイルキンソン

帰国、そして故郷へ

東京 羽田空港 VIPラウンジ

「表はどうなってるんだろうね」

そう聞いてくるのは比企谷かおり。俺、比企谷八幡の妻である。

「まあ、マスコミとか普通にいるだろうな。」

「達どうしよう・・・」

かおりは達を心配しているようだ。確かに、1歳の男の子からしたら、マスコミや父親のファンに囲まれるのはちよつと怖いだろう。

「空港の人に相談してみるか」

空港の人と相談して、専用ルートを設定してもらい、マスコミに撮られることもなく、千葉にある実家に戻ることが出来た。

マスコミへの説明までこなしてくれたそうだ。後日感謝の手紙とか送つとくか。

千葉 比企谷家

実家に着き、俺達はインターホンを押す。

『はい・・・あら八幡。ちよつと待っててね』

出たのはお袋の様だ。

ちよつと待つと、お袋が出てきた。

「久しぶりね八幡。去年の3月以来かしら」

比企谷華。俺の母親である。

50を過ぎてもその美貌は健在である。

「お兄ちゃんおかえり。かおりさんも」

次に来たのは小町。今は富士通グループの会社に勤めている。

そして富士通フロンティアーズのチアリーダーをしていると言うが、その道を選んだ事に親父は反発しており、まだ完全に仲直りは出来てない。

ガチガチのAリーグ派の親父としては、Xリーグ派になった小町の事を良く思っていないのだろう。

「ああ、ただいま。で、小町、親父は？」

「お父さんなら、スーパード行ってる。息子の移籍を祝うために今夜は

和牛のすき焼きにするとか言ってた。わざわざA5ランクの和牛とか、神戸、松阪、鳥取、赤和牛……。冷蔵庫が牛肉で埋まってるよ」「あはは……。勝司さんらしい」「かおりは少し苦笑い。

「奮発しすぎだろ……。今年の親父の報酬いくらなんだよ」

「1年あたり5億円、これが5年契約で、実績による出来高は今までで6億円くらい。ま、スポンサーがでかいから。」

おいお袋、お茶すすりながら大金を軽々しく言うな。

「1年換算で年収7億円、で小町の年収の、約80倍……お父さん大金持ちじゃん」

小町も親父の年収の高さに驚いている。

「因みに、小町がビッグブルーでチアやってたら給料は月70万いくかいかないかくらいで、年収は2回のフルボーナス込みで1190万円よ。スポンサーがでかいと、出てくるお金もかなり違うのよ。ビッグブルーの主要スポンサーはIBMはもちろん、ANAや日立も名を連ねてるから」

お袋が補足する。小町、良い稼ぎ口逃したな。

「因みに、年棒総額トップはアルバルク東京AFCだ。さすが、世界のトヨタといったところだな」

「親父いつの間に……」

親父は誰にも気づかれることなく入ってきた。

「さて、皆揃ったし、準備してさっさと食おう」

と言うことで、全員で準備した。

和牛のすき焼きはとても旨かった。が、親父よ。

帰ってきたばかりの息子に食材費半分払わせるとか鬼だろ。

あと、嬉しいからってお酒押し付けるな。

でも、悪くない。

ただいま。

オーナー会議①

2月某日 Aリーグ本部

勝司 side

「これより、日本プロアメリカンフットボールリーグ、Aリーグ2026シーズン、オーナー会議を始めます」

Aリーグチエアマン、興津重幸が開始を告げた。

今日はオーナー会議。2026シーズンの大まかな方針、ファイナルまでの日程確認、新規参入希望チームの審査を行う重要な会議である。

俺、比企谷勝司は本来はヘッドコーチだが、今日はオーナーの代理として出席している。俺には決定権も委任されている。

「まず、新規参入希望チームの審査を行います。今回は2チームが参入希望を出しています。手元の資料を確認していただきたい。」
そう言われ、資料を確認する。

今年アキタと愛媛か。どちらも元Xと。

実は、Aリーグへの参入を希望するチームは毎年出てくる。しかし、財務面で厳格なAリーグの参入基準は超えるのが難しいようだ。

しかし、この2チームは基準を満たしている。さらに、この2チームはSNSでのプロモーションに力を注いでいる。そのためフォロワーはAリーグトップクラスの千葉や相模原と良い勝負だ。

ビッグブルーのSNS？5番手だよバカヤロー。

そんな感じで資料に目を通してたが、とある人物が沈黙を破った。
アルバルクの薄井オーナーだ。

「我々は賛成です。新チームの参入はリーグと加盟チームに良い刺激を与えてくれます。危機感を覚えて各チームが対策を練って試合に備えた練習を強化する。これは日本代表のレベルやAリーグそのもののレベルアップにもつながるでしょう」

確かにそれには頷ける。興津チエアマンもそのようだ。

「ちよつと待つてほしい。それを認めたら、今季のドラフトの制度も見直さなければいけなくなります。もう少し慎重に考えませんか」

サイクロンズの宮田GMが慎重論を唱えた。興津チエアマンはこう反論する。

「指名順抽選方式の順位数を変えるだけでいいでしょう。放送だって、フジテレビさんはいくらでも延長してくれますし。それに新規参入球団には2人分の先行指名権を与える、とリーグ規約やドラフト会議規定に定めている。今回参入を認めればその制度が日の目を見ることになる。絶好の機会です。それに、認めれば新規参入を排除しているなどの批判も鳴りをひそめ、公取のマークから脱却できる。いいことづくめでしょう」

そう言われると、慎重派のほとんども納得するようになった。公取は怖いしな。

「では、この2球団の新規参入を承認する、ということでは、異論はありませんね?」

全員が頷いた。そして、興津チエアマンはこう高らかに宣言した。「それでは、2026シーズンはアキタ、愛媛の2球団を加えた計26球団で大会を運営していくこととします」

オーナー会議②

「では、続いて今シーズンの日程を確認します」

オーナー会議は日程確認に移った。

「今シーズンは原則3月1日日曜日に第1節とします。しかし、中地区のビッグブルー東京とアルバルク東京AFCの2チームについては、2月28日土曜日に、ビッグブルーさんのホーム扱いで、『2026シーズン開幕戦 TOKYO DREAM BOWL』として行います。詳しくは各チームに配布した日程を確認いただきたい」

先出し開幕戦はよくあるものだ。2023年の開幕戦も、3月25日にうちと千葉シーガルズで日産スタジアムで行ったりした。それ以降も、一斉開幕ではなく、1試合を先出しで開催し、開幕とした。

因みに今期はうちのチームはこのような日程だ。

○1stステージ（地区別）

2. 28 東京ドーム 開幕戦（HOME） vs アルバルク東京AFC

3. 7 日産スタジアム 第2節（AWAY） vs 横浜ビー・

ダイヤモンズ

3. 21 国立競技場 第3節（HOME） vs 名古屋サイク

ロンス

4. 4 ヤマハスタジアム 第4節（AWAY） vs ジュビ

ロ静岡

4. 18 国立競技場 第5節（HOME） vs シルバース

ター横浜

4. 25 国立競技場 第6節（HOME） vs 横浜ビー・ダイ

ヤモンズ

5. 1 町田市立陸上競技場 第7節（AWAY） vs アル

バルク東京AFC

5. 9 パロマ瑞穂スタジアム 第8節（AWAY） vs 名

古屋サイクロンス

5. 16 国立競技場 第9節 (HOME) vs ジュビロ静岡
5. 23 ニッパツ三ツ沢球技場 第10節 (AWAY) vs
シルバースター横浜

○2ndステージ (カンファレンス別)

1\3節 bye week

10. 3 沖縄スタジアム 第4節 (AWAY) vs メンソー

レ琉球 (西地区)

10. 8 大阪ドーム 第5節 (AWAY) vs 大阪チャレン

ジャーズ (西地区)

10. 17 ヤンマースタジアム長居 第6節 (AWAY) vs

大阪ブラックイーグルス (西地区)

10. 24 国立競技場 第7節 (HOME) vs デイアーズ

調布 (東地区)

10. 31 国立競技場 第8節 (HOME) vs 千葉シーガ

ルズ (東地区)

11. 7 国立競技場 第9節 (HOME) vs 相模原ライズ

(東地区)

この15試合の年間の勝ち点で上位4チームが12月のチャンピオンシップに進出する。

12. 5 東京スタジアム 13:00キックオフ 総合1位 v

s 総合4位

12. 6 ヤンマースタジアム長居 13:00キックオフ 総合

2位 vs 総合3位

12. 13 会場未定 19:00キックオフ ファイナル

因みに、成績が振るわなければ、最悪の場合残留プレーオフに行く。

12. 5 長居球技場 1回戦 13:00キックオフ 総合15

位 vs 総合18位

12. 6 長居球技場 1回戦 13:00キックオフ 総合16

位 vs 総合17位

12. 12 長居球技場 2回戦 14:00キックオフ 5日の

勝者 vs 6日の勝者

12・19 日産スタジアム A1・A2入れ替え戦 19:00
キックオフ 12日の敗者 vs A2プレーオフ3位

「以上で日程確認を終了します。では次ですが、2028年のIFFAFクラブワールドカップについてIFFAFからAリーグに通達がありました」

場の全員の顔が強張る。

IFFAFクラブワールドカップ。国際アメリカンフットボール連盟によって創設された、アメフトクラブチームの世界一決定戦。NFLのクラブも参加する、アメフト界史上初のクラブ世界大会だ。

Aリーグは日本協会から分離独立して設立されたという経緯から、当初は参加権がないと考えられていたが、日本におけるアメフトブームを受けてAリーグをIFFAFやNFLが積極的に支持するようになったため、Aリーグにも予選の枠が与えられている。しかも、IFFAFの支持は熱烈なもので、Aリーグが議決権ありの団体として特別にIFFAFに加盟し、ナショナルチームの世界大会であるワールドカップにも、Aリーグ日本人選抜チームが予選から出場できるようになっている。そのため偶数年のAリーグ優勝クラブは翌年のアジア・オセアニア予選への出場権を獲得できる。

・・・これもうあれだろ、AリーグってIFFAF直轄になってねーか？

2024年の第1回大会の際は、Xリーグ2022シーズン優勝のパナソニックが予選へ進み、Aリーグ2023シーズン優勝のビッグブルーが翌年2月の本大会に開催国枠で出場した。

今年通達ということは、2028年大会の話だろうな・・・

「それで、通達の内容ですが、1つ目は『2028年大会の組織委員会の組織をAリーグに委任し、開催国枠をAリーグに付与する』、2つ目は『アフリカ地区11か国が再加盟し、各国において国内リーグなどが活動開始したため、アフリカ地区予選を実施する』、3つ目は『アフリカ地区参加で枠が奇数になるため、臨時措置として開催国第2出場枠を設置し、その枠をXリーグ優勝チームとAリーグ準優勝チームと

の間で決定戦を実施し、勝者が本大会、敗者が予選に出場する。決定戦は大晦日に東京ドームで開催」とのことです。」

会議に出席しているメンバーが一斉に動揺する。

まさか運営まで任されることになろうとは思ってもいなかっただろう。正直俺も驚いている。

「それと、ワールドカップ以外でもう一つ通達が来ています。先日IAFFの日本視察で、プライベートリーグの存在が疑問視されました。JAAFが存在を認定しているものの、既存の高校・カレッジ・Xリーグに参加せず、独自のリーグを組織しているのが、ピラミッド型でのリーグ類型を重視するIAFFの意向に反しているようです。そのうえで、Aリーグとプライベートリーグ各団体を統合して新しいリーグ構成と新しい協会を組織してほしい、と依頼がありました」
プライベートリーグ。

JAAF・Xリーグなどの管理下になく、それぞれの地域で独立したリーグを組織している。

その通達に仙台の加賀見オーナーが反応する。

「そんなことしたらただでさえ分裂状態なのに、分裂が加速するだけでは？IAFFの狙いは何なのでしょうか」

加賀見オーナーの話にチエアマンが反応する。

「分裂させたらうえて、JAAFを叩くんですよ。世界ランク3位という地位に胡坐をかいてる現状ですから。我々に2位の座を奪われても、認めず、練習せず、ただ文句を言うだけ。地位や発言力を低下させて、新協会に編入させようって魂胆です。現にアメリカでも、独立リーグをNFLの傘下に集結させてリーグ構成を統一させる動きが出ていますから」

まあ、単一の統括組織でなければ、競技の普及をどちらが持つか、どちらが上位的存在で、どちらと関係を築くのが有利かなんて判別がつきにくかったりする。競技の振興にも支障をきたすことを考えると、IAFFの考えは理にかなっている。

・・・こればかりはどうしようもない。IAFFに乗っかる以外の選択肢はなさそうだな。